

井の国歴史懇話会報

VOL. 4

発行：井の国歴史懇話会事務局 発行日 平成 25 年 8 月 26 日



家康公遠州入りの道

現地研修報告

会長 武藤全裕

桶狭間の合戦後三河で着々と勢力を伸ばした家康公が、遠州入りを目論んでいましたが、敵対する勢力に阻まれ続けていました。その間にも画策をめぐらし、遠州入りに腰を上げたのが、永禄11年でした。

古くからの街道である本坂越しで入ることができず、伊那街道を北進して陣座峠を通るルートを探りました。



三明寺

奥山方広寺の開山無文元選禪師が再興されたと言われている。重要文化財の三重塔



富賀寺

亨録3年(1530)宇利城合戦の際に松平黄康の本陣となった。



近藤氏の墓

井伊谷三人衆の一人、近藤氏の墓が富賀寺にある。



宇利城

近藤氏の居城宇利城は山の中腹に或る。家康公はこの山の道を通って陣座峠へと向かった。三遠の国境に横た

わる山並みは陰しかった。

1 現地研修をもとにして、私案を作りました。

岡崎城を出発し永禄11年(1568)12月13・14・15日井伊谷城入り、16・17日引馬城入りの全経路です。前半の経路については三遠研(三遠地方歴史研究会)豊橋支部長仲井政弘氏にご協力をいただきました。

【経路図】 武藤私案

岡崎城 → 小坂井 → 牛久保城(泊)

東海道東進

伊那街道北進

→ 三明寺 → 牧野城 → 豊川(井の瀬)

→ 加茂 → 下宇利 → 中宇利 → 富賀寺本陣(泊)

別所街道東進

→ 黄柳野 → 陣座峠越 → 奥山方広寺

→ 井伊谷城(泊) → 瀬戸～～→大菩薩(村)

都田川を渡り三方原南進

→ 橋羽妙恩寺(泊) → 曳馬城入り

(注)13日の宿泊地吉田城説、14日の宿泊地に西郷(村)に西川城あるいは五本松城説あり。五本松城＝西郷正勝で家康の側室西郷局が西川城に暮らしていた。

2 「井の瀬」を発見しました。

『井伊家伝記』に「黒田より井の瀬をわたり加茂下宇利通り…」とあり、仲井政弘氏の骨折りで最近の国土地理院の地図にその名を発見出来ました。この場所は伊那街道沿いの横尾村、賀茂村の間で、豊川の川幅が一番狭い所に位置している。現在東名高速道路が通る橋のところであるとのことです。



井の国歴史懇話会から沸き起こった
朝鮮通信使プロジェクト

井の国歴史懇話会再開・総会での講話「朝鮮通信使」を契機として、朝鮮通信使を見直そうという機運が高まってきました。そして、下記のように一部の会員でプロジェクトが立ち上がりつつあります。今のところ、この会の事業ではありませんが、協力支援していく意向であります。

1 静岡県に残る数多くの朝鮮通信使の足跡の整理

- ① 龍潭寺の残る2枚の扁額
- ② 新居の稲荷
- ③ 興津清見寺の資料

* 龍潭寺の扁額のことから彦根藩の朝鮮通信使の交流状況を始めとして東海道との関わりから追求する。

2 龍潭寺の扁額の書家の子孫を探す事業

朝鮮通信使を敬って、扁額への依頼をし、以後400年にわたって扁額を大切にしてきた日本人の気持ちを伝えて民間の平和外交に発展させる。

- ① 龍潭寺の扁額の資料と住職の親書を韓国朝鮮通信使事務所へ届ける。
- ② 書家の子孫を探すキャンペーンの展開

3 朝鮮通信使の足跡を追う旅

9月13日～15日に「21世紀朝鮮通信使プロジェクト」として代表が訪韓する予定。



次回のお知らせ 10月22日(火)

現地研修 「龍潭寺住職と歴史にふれる旅②」
～三遠の山城を訪ねる旅～

1 参加費 6千円(昼食 名物五平餅定食)
会員外¥500増し

当日集合場にて徴収いたします。

2 集合場所 龍潭寺大駐車場 8時

8:30 龍潭寺 ～ 伊平城址 ～ 仏坂 ～ 柿本城址 ～ 満光寺 ～ 昼食(田峯観音 田峯歌舞伎公演会場見学) ～ 田峯城址 ～ 田峯小学校(青い目の人形見学)～17:00龍潭寺

3 マイクロバス27人乗り

4 参加締切

8月31日までにハガキにてお申し込みください。
(先着順25人まで)



田峰城址



青い目の人形

※湧水で有名な場所です。ポリタンクをお持ちくださいればお土産になります。

※青い目の人形は戦前日米友好のしるしとしてアメリカから12,739体が送られました。戦中には敵性人形としてその多くが焼却処分され、現在300体あまりの人形が残っています。

2月15日(月)

現地研修 「龍潭寺住職と祈りを求める旅③」
湖北の涅槃図の拝観

編集後記

子供の頃、雨が降らないと、お地藏様を馬のわらじで洗って、雨が降るまで水につけて雨乞いをした遠い日々の故郷の山河をこの夏も懐かしく思い起こしました。(柴)

